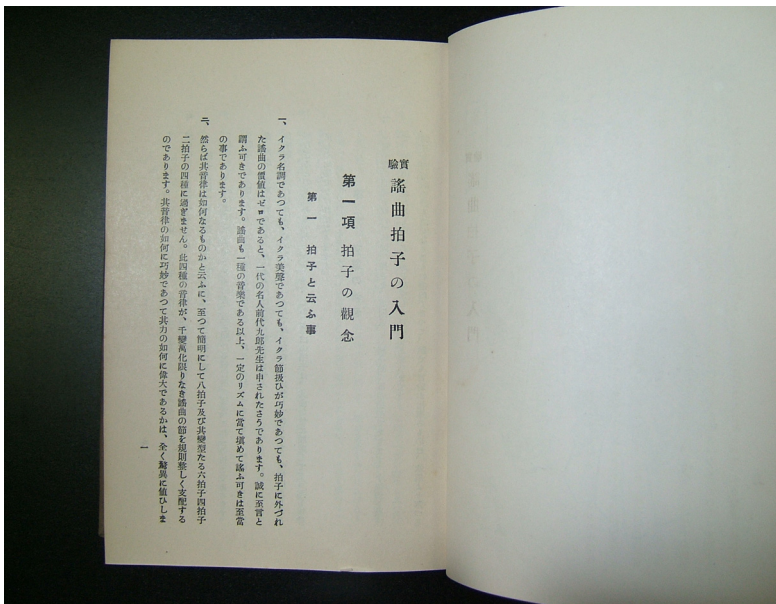


安間哲郎 『実験謡曲拍子の入門』

紹介記事（『宝生』九巻七号掲載）によると、著者の安間（アマ）氏は名古屋熱田の眼科医師。引用する一句一句に、すべて節が附られ、その上で割付けが示されている点が特徴。山崎『地拍子精義』等がノリごとに区別して記述を進めるのに対し、本書は、間がないもの（本間）、増節、字数の過不足、間の引きという順に記述を進める。増節以降の章は、謡本の節を規範と考える立場から立てられる。そこには、増節等を例外として片付けてしまわない、著者の慎重なまなざしがある。



標題 内題…実験 謡曲拍子の入門

標題紙…

奥附…実験謡曲拍子の入門

その他…実験謡曲拍子の入門（表紙・目

次・奥題・背

著者 奥附…安間哲郎

その他の場所…

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和5（1930）

その他の場所…序 昭和5（1930）

形態 冊数…一冊 頁数…五九二頁

寸法…19×13（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考